

## 大学名：創価大学

ASPUnivNet の 4つの機能他	評価項目	事例記述
1. 学校のユネスコスクール加盟を支援します(加盟に関する相談も含む)	① ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	東京都立多摩桜の丘学園：教育実習や学生の特別支援学校見学の受入を通して、ユネスコスクールへのチャレンジの意思を示していたことから、加盟に向けての情報を共有してきた。その結果、本学ユネスコスクール支援委員会による「ユネスコスクール・チャレンジ校等応援企画シンポジウム」(2024.1.12)のコメントーターとして登壇いただいた。
	② ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	東京都立多摩桜の丘学園のチャレンジ登録(2024年1月より)にあたり支援大学として指名いただき、2024年2月29日に本学担当教員2名で学校訪問した。特別支援学校からユネスコスクールへのチャレンジにあたり情報共有を行った。
	③ 地域の加盟済のユネスコスクールに向けてESD/SDGsをリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	チャレンジ校からキャンディデート校への移行に際して群馬県立渡良瀬特別支援学校を訪問し、ESD推進のポイントについて情報共有を行った(2024年8月31日)。国際デーの取組、広報宣伝活動などについての改善策を提案した。郁文館夢高校のESD探究プロジェクト(環境分野)のアドバイザーとして本学経済学部の掛川教授を紹介した。
2. 大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します	① 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援(資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど)を行うことができた。	教育学部山内俊久ゼミの学生が開発した特別支援学校向けSDGsすごろくを群馬県立渡良瀬特別支援学校へ提供した。
	② 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	「ユネスコスクール・チャレンジ校等応援企画シンポジウム」(2024.1.12)に際しては、チャレンジ校登録希望であった東京都立多摩桜の丘学園と、キャンディデート校1年目の群馬県立渡良瀬特別支援学校、ユネスコスクール先進校でもある大牟田市特別支援学校とのシンポジウムに協力いただいた。
	③ 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	教育学部山内俊久ゼミにおいては、大牟田市立大牟田特別支援学校、群馬県立渡良瀬特別支援学校を始めとする特別支援学校との交流活動を実施するユネスコスクールをユネスコスクール公式ウェブサイトに掲載の学校を調べて資料集を作成し、今後の授業等において活用の予定。
3. 地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します	① 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	ニーズが無かった

	② ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。	学生団体ユネスコクラブが東京のユネスコ協会のイベントに参加した。
	③ ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	ASPUnivNet に加盟している関東の大学とともに、第4回ユネスコスクール関東ブロック大会の企画に参画した。
4. 国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します	① 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	ニーズが無かった
	② 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	「ユネスコスクール・チャレンジ校等応援企画シンポジウム」(2024.1.12) に際して群馬県立渡瀬特別支援学校にはシンポジストとして登壇いただき、ユネスコスクール先進校でもある大牟田市特別支援学校とのシンポジウムに協力いただいた。
	③ ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。(例:ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など)	教職大学院の海外実地研修先にシンガポールのユネスコスクールである Humine 小学校を設定し、交流している。 また、フィリピンのフィリピン師範大学(ユネスコスクール)への短期研修を企画したが、開催実施定員を満たせず、中止した。
5. 大学内の活動	① 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	ユネスコの記念日を学内に紹介(ACCUからのメールを発信)している。 ユネスコスクール支援委員会が主催して、学内予算を使ってユネスコスクール支援フォーラムを毎年開催している。
	② 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	学部においては、国際理解教育・国際開発教育・カリキュラム論の3科目、教職大学院においては、世界市民教育を推進する学校と教員の役割・ESDとユネスコスクール・ESDと異文化コミュニケーションの3科目において、ユネスコスクールに関わる教育について扱っている。
	③ 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	特に調査研究は行っていない
	④ その他	
6. ASPUnivNet のネット	① 加盟大学間で情報共有ができた。	ASPUnivNet 連絡協議会に運営委員として参画し、情報共有を行った。

トワーク機能の活用	② 加盟大学間で連携した取組ができた。	今年度は東海大学が主催し、本学を含む関東地域 3 大学が共催の形で、ユネスコスクール関東ブロック大会を開催した。
	③ その他	

#### 自由記述

- ・ユネスコスクール支援委員会として、ユネスコクラブの設立・活動支援を行った。
- ・SDGs 推進センターとして「2023 年度 SDGs 達成に向けた実践者と学生・教員の対話・ネットワーキング会合」開催した。
- ・SDGs 推進センターが、学生による SDGs の達成に向けて貢献度の高い取り組みや将来有望な取り組みを募集する「創価大学 SDGs グッドプラクティス」を実施し、選考の上表彰式を行った。
- ・SDGs 推進センターとして、学生を対象に SDGs アンケート 2023 を実施・公表した。
- ・SDGs 推進センターとして、SDGs の各目標に対応した本学の取り組みをまとめた SDGs レポート 2022 を公開した。